

2022年02月17日



SDGsの意義と日本の役割

社会政策課題研究所

所長 江崎 禎英

## SDGs の意義と日本の役割

新型コロナウイルスのオミクロン株が世界各国において急速に広がりつつあるものの、デルタ株に比べて重症化の割合が低く、ワクチン接種も進みつつあることから、今や先進国を中心に、経済活動や社会活動の再開に向けて準備が始まっています。コロナの先にある未来を企画することが必要な段階に入っているのです。

他方、新型コロナのニュースから目を転じると、ウクライナやアフガニスタン、北朝鮮など国際秩序の不安定化が進む一方で、地球環境への対応を始めとする SDGs への取り組みを求める声が世界的に広がりつつあります。日本国内でも今や SDGs の名前を聞かない日はないほどで、何処へ行っても SDGs の 17 の目標をデザインしたポスターやカラフルな丸い SDGs バッチを付けたビジネスマンを見かけます。

しかし、興味深いことに、講演会などで「SDGsという言葉を知っていますか？」と尋ねるとほぼ全員が手を挙げるのですが、「SDGsの意味を人にちゃんと説明できますか？」と尋ねるとほぼ全員が手を降ろします。知っているようで知らない SDGs。今回のレポートでは、コロナの先にある未来をテーマとして SDGs の意義と日本の役割について考えてみたいと思います。



### 1. SDGs の意義

今や国の内外を問わず SDGs の文字やロゴを見かけることは少なくありません。ありとあらゆる社会活動や経済活動が SDGs に関係しており、むしろ SDGs と無縁なものを探す方が難しいくらいです。

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、持続可能な開発目標のことです。具体的には、世界が直面する貧困、人種差別、環境破壊など様々な地球規模の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国連加盟国 193 か国が 2030 年までに達成を目指す国際目標を言います。

達成すべき目標は 17 あり、細分化すると 169 の達成基準と 232 の指標があります。しかしながらこれら 17 の目標や 169 もの達成基準をすべて把握し、232 の指標を勘案しながら取り組みを行うことは現実的ではありません。

## 2. 17の開発目標の意味

17の開発目標を個々に見ると、貧困や飢餓を無くそうというものから、健康、福祉、教育に関するもの、更には、ジェンダーやエネルギー、働きがい、まちづくり、生産と消費、気候変動、海、陸、平和、パートナーシップといったように、一見すると脈絡のない目標の羅列に見えます。それぞれの目標に色が付けられているため、カラフルなイメージが印象に残るものの、各目標の内容まできちんと頭に入れるのは容易ではありません。



しかしながら、これら 17 の目標を順番に沿って大きく括ると、SDGs が目指すところが見えてきます。具体的には、P が頭文字に付く言葉によって次の五つに分類されます。

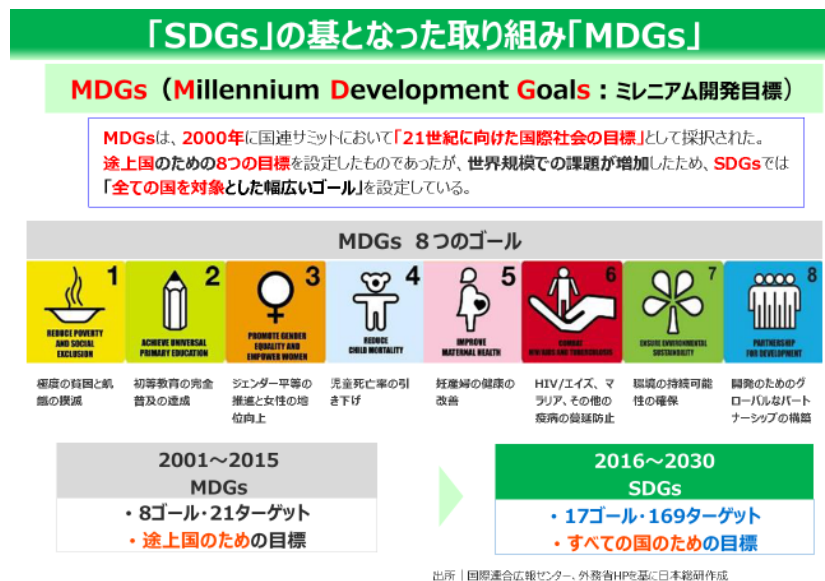
最初の6つが「**P**eople（人間）」で、貧困と飢餓をなくし健康で平等な生活を送るための目標群。次の5つが「**P**rosperity（豊かさ）」で、経済的な豊かさと安心できる社会を構築するための目標群。次の4つが「**P**lanet（地球）」で、自然と共存し、地球環境を守る取り組みを実現するための目標群。次の1つが「**P**eace（平和）」で、平和で公正な社会を目指そうという目標。最後の1つが「**P**artnership（パートナーシップ）」で、世界が協力し合う関係を構築しようという目標です。



### 3. SDGs の基となる目標

意外に知られていないのが、SDGsの前にその基となった取り組みがあることです。実はSDGsの前にMDGsという目標がありました。MDGs (Millennium Development Goals) は、ミレニアム開発目標のことで、2000年の国連サミットにおいて「21世紀に向けた国際社会の目標」として採択された途上国のための8つの目標を設定したものです。新たな世紀が始まるに当たって、途上国の貧困を取り除き世界全体が豊かで平和になることを目指したものです。

この目標は途上国を念頭に置き2015年までに達成することを目指していたのですが、MDGsによっても解決しきれなかった課題に加え、世界規模での課題が増加したため、2030年までに達成すべき「全ての国を対象とした幅広いゴール」としてSDGsが設定されたのです。つまりMDGsが主に発展途上国の課題解決を目的としていたのに対して、SDGsは発展途上国だけでなく先進国の課題も同時に解決することを目的としているのです。



### 4. 世界は何故 SDGs を求めるのか？

途上国の発展を前提に始まった一連の取り組みですが、何故これほどまでにSDGsが世界に広がったのでしょうか。その背景として考えられるのは、新自由主義を基本とするグローバルな経済活動が「耐え難い格差」を生み出してしまったこと、更には気候変動や海洋プラスチックなど地球規模での問題が生じてしまったことです。

歴史的に見れば、世界の紛争の殆どがその根底に貧困や格差があります。冒頭に述べたアフガニスタンやウクライナを始めとする紛争も例外ではありません。2020年1月に国際NGO オックスファム・インターナショナルが発表したデータでは、最富裕層2153人が保有する財産は最貧困層46億人が保有する財産より多いことが示されています。ちなみに46億人は世界人口の60%超に相当します。貧困層と富裕層間、都市部と農村部間などの格差は未だに広がっており、深刻な格差の問題と貧困層や脆弱な人々が置き去りにされている状況は、社会の秩序と安定を揺るがしかねないところまで来ているのです。

こうした状況に加え、地球温暖化に伴う被害は全世界に及ぶだけでなく、その規模もかつて経験したことのないレベルにまで拡大しています。また、これまで手軽さ便利さを享受してきたプラスチックも、海の生態系への影響に留まらずマイクロプラスチックや環境ホルモンとして人体にも影響を及ぼす可能性が指摘されるようになりました。

SDGs への取り組みを求める活動の背景には、目先の経済的豊かさと快適さを追求した結果、社会全体の秩序の維持が難しくなっていることに加え、地球環境にも取り返しのつかない影響を及ぼしてしまっているとの危機感があるのです。しかもこうした課題の解決には、何処か特定の国や地域が努力すればよいのではなく、全世界が協力して取り組むことが不可欠なのです。

## 世界は何故SDGsを求めるのか？

### 耐え難い格差の発生

**最富裕層2153人は最貧困層46億人よりも多くの財産を保有。46億人は世界人口の60%超に相当する。**

**世界で最富裕層22人の男性は、アフリカの女性全員よりも多くの財産を持っている。**

国際NGOオックスファム・インターナショナル (2020年1月)



### 地球規模での課題の発生

温暖化による災害が全世界的に発生。



海洋プラスチック問題など全世界で取り組む必要がある。



## 5. 経済活動見直しへの機運 (Great Reset)

こうした地球規模での取り組みが必要なことは、世界のリーダーが集まるダボス会議でも主要テーマとなっています。2020年のダボス会議のテーマは、“Great reset”でした。つまり、「今だけ、金だけ、自分だけ」を助長する新自由主義をベースとしたビジネスモデルを転換しようというものです。このままでは、地球環境に加え未来の繁栄と平和が保てないということを経済分野のリーダー達も認識し始めたことの証左かと思われます。

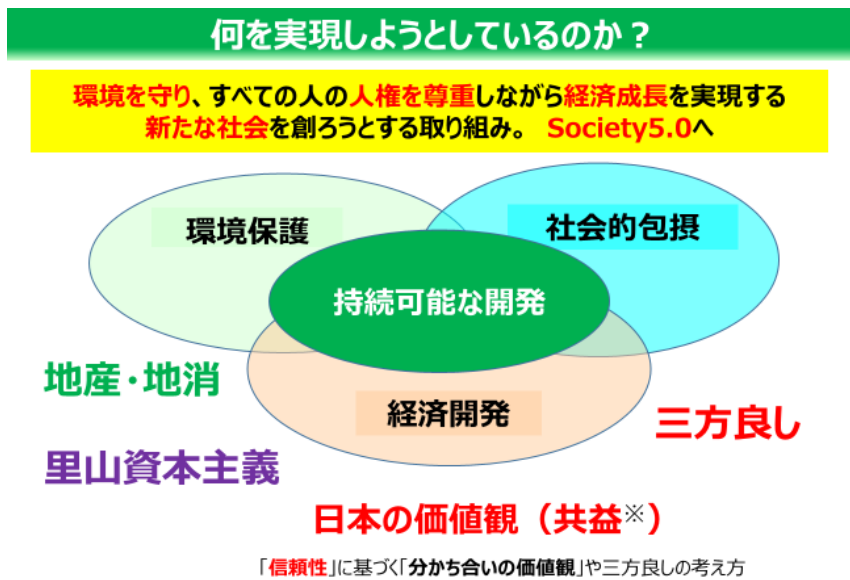
新自由主義的グローバル化が進むと、経済や社会が不安定化すると言われます。より有利な投資先を求めて世界規模で資金が動くため、急激な資金の集中と散逸が国境を越えて起こります。所謂「グローバルマネー」の動きは急激で、投資価値が高いと認識されると世界中から資金が集まり、バブル的な様相を呈するのです。ちなみに、近年景気とは関係なく、日本国内で株価が上がる理由としてグローバルマネーが日本に向かったことが挙げられます。

## 6. SDGsは何を実現しようとしているのか？

世界規模での課題が発生している危機感から生まれたSDGsですが、この取り組みの結果としてどのような社会になることを想定しているのでしょうか。国連によれば、SDGsが求めるのは、環境を保護しつつ、すべての人の人権を尊重しながら経済成長を実現する新たな社会を創ることだとされています。

しかし、冷静に考えてみると、環境を保護しながら経済発展をするというのは、地産地消であり、里山資本主義でもあると言えるでしょう。更には、誰も取り残さない（社会的包摂）で経済発展するというのは、日本に古くから伝わる「三方良し」の考え方です。三方良しとは近江商人の基本的スタンスで、「売り手良し、買い手良し、世間良し」によって、経済活動が社会全体を良くすることを常に考えながらビジネスを行うというものです。これは「信頼」に基づく「分かち合いの価値観」であり、最近、よく耳にする公益資本主義なども同様の考え方を踏まえたものだと思います。

SDGsは海外から来た全く新しい概念と思われがちですが、実は、見方を変えると江戸時代からある日本的価値観を実現しようとする取り組みでもあるのです。ちなみに、SDGsによって実現される社会は、情報社会の次に来る新たな社会（Society5.0）と言われています。



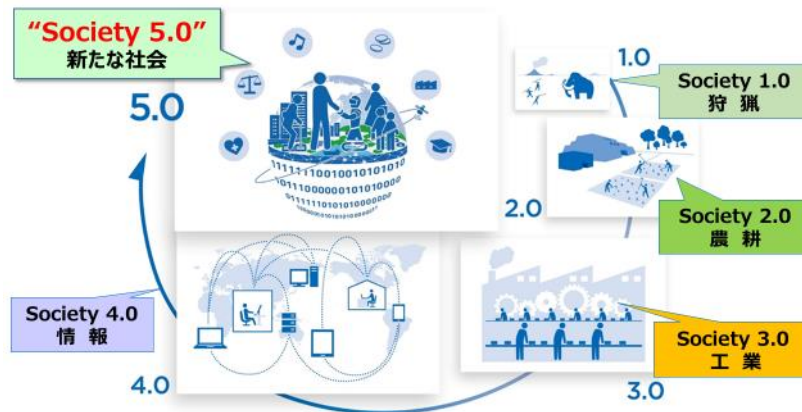
## 7. Society5.0 (SDGsによって実現する社会の姿)

それでは、SDGsの取り組みによって実現するSociety5.0とはどのようなものなのでしょうか。実は、未だ誰もその姿を明確に語ることは出来ていません。ただ、SDGsの考え方からそれを推測することは可能です。それを考えるに当たって、まずはSociety4.0やSociety3.0とはどのようなものだったかを見てみましょう。

これは社会の発展段階を示すもので、Society1.0が狩猟社会、Society2.0が農耕社会、Society3.0が工業社会、Society4.0が情報社会です。ちなみに日本は、Society3.0において世界で最も成功し、Society4.0で負けたと言われています。しかし、Society4.0は社会の不安定化と耐え難い格差を生み出してしまったのです。

## 「Society 5.0」とは？

- サイバー空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、**人間中心の社会(Society)**



Society 5.0とは、「サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」と定義されています。具体的には、AI や IoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることによって実現する未来社会であるとされています。

これだけを聞いてもなかなか具体的なイメージを描くことは難しいと思われます。しかし、上記の図が示す興味深いメッセージは、Society5.0 が Society4.0 の単純な延長線上にあるのではなく、大きく円を描いて戻って来ることです。ただし、これは決して単に昔の狩猟社会や農耕社会に戻ることを意味するのではなく、最新の技術を駆使しつつ、自然環境を維持しながら、分かち合いの精神のもと、皆で協力しながらかつてあったの良い文化を取り戻した質の高い社会を創ろうというものです。

環境分野に「懐かしい未来」という言葉がありますが、SDGs が目指す「環境を保護しつつ、すべての人の人権を尊重しながら経済成長を実現する新たな社会」は当にそのようなものだと思います。

コロナの先にある未来に一番近いところに居るのは、実は日本かもしれません。勿論、日本社会にも解決すべき課題は沢山ありますが、世界が求める新しい価値観は既にビルトインされているのです。世界が求める新たな社会を実現することは、日本にとっての大きな役割であり、世界に対する貢献でもあるのです。